

# 災害支援ナース活動報告書

報告者：橋本 樹

所属施設：新潟大学医歯学総合病院

報告月日：令和6年2月14日

活動日	令和6年2月2日（金）～2月5日（月）
活動場所	施設名 いしかわ総合スポーツセンター
活動内容	<p>私たちは発災約1か月が経過し、避難所の整備が比較的されている「いしかわ総合スポーツセンター」にて活動を行った。この避難所は1.5次避難所とされ、高齢者や乳幼児のいる家族、障害者の方々が2次避難所へ移動するまでの間生活される場として利用されていた。避難所は大きく3つのエリアに分類されており、避難者の自立度が高い順番から、「メインアリーナ」、「サブアリーナ」、「マルチアリーナ」と分類されていた。私たち災害支援ナースは主に「メインアリーナ」の活動を任されており、私は活動初日より夜勤を担当した。</p> <p>夜勤はエリアを4つの区画を各県で割り振り巡回を行った。避難者の中にはベッドからの転倒転落をされている方や、発熱、消化器症状など感染症疑いの利用者が多く、エリアマップに分かりやすく表示されていたため、避難者の健康観察や健康相談などを主に行った。日勤よりもらった申し送り内容をもとに巡回したが、エリアマップや避難者のリストと実際のフロアの状態との相互性があり、現在のエリアの状態を更新する目的で巡回を行い、担当エリアの避難者一人一人へ体調不良の有無などについて声掛けを行った。また、昼夜を通し徘徊される避難者もあり、避難所からの離院などが起きないように一緒に散歩や傾聴をおこなった。</p> <p>活動3、4日目は「サブアリーナ」での活動を実施した。このエリアは主にDMATの管轄エリアであったが、今後DMATが撤収していく中で管轄主体をどの職種に引き継ぐのが課題となっていた。また、このエリアでも感染症疑いの避難者が多く介助量も高いため、より綿密な健康観察を要する方が多くいた。私は感染エリアのバイタル測定や避難所からの退所、病院から避難所への入所の対応などを行った。活動最終日に次の班への申し送りの際は、現在のサブアリーナの課題や今後DMATから災害支援ナースに引き継がれる可能性のある業務内容などを伝え活動を終了した。</p>
所感	<p>発災から約1か月が経過してからの活動であったため、サブアリーナのように管轄主体が変更になる狭間の活動となり、各職種で業務内容を割り振る際にこの避難所の在り方をどのように考えていくのが課題となった。限られた活動期間の中で災害支援ナースとして移行できる業務内容を決定し次の班へ引き継ぐことは困難であり、自分たちで全てを整理し引き継ぐのではなく、災害支援ナースのチームとして活動することの大切さを実感した。また、避難所が皆様の生活の場であるが、活動の際は「病院勤務の時はどうしているか」という思考へ変換されがちであり、支援しなくてはという気持ちから必要以上に避難者へ声掛けなどを行ってしまった場面もあり、自身の求められている立場をわきまえて活動することの困難さも実感した。</p>